

三月二十五日つづき

夕方二川幸夫佐賀に。六時よりHOTELで食事。相変わらずの元気振りを発揮。「キミね、利休重源空海はアレは魔術師だぜ。」こういうところの、いわゆる長島茂雄型の直感は凄いものがあるのだな、相変わらず。二一時過、Barでウイスキーを飲んで休む。これ位の酒が今の私には丁度良い。まことに弱くなった。二川さんには敵わないのだ。

三月二十六日

第一講森正洋 第二講安藤忠雄 第三講二川幸夫。

全て充実した講議であつた。達人は皆やさしい言葉で語る。佐賀でのワークショップは終るが、かくの如き人間関係は残るんじゃないか。そうあつて欲しい。

難波和彦、松村秀一、中川武来校。「おさむ」で食事。「おさむ」にも世話になつた。

三月二十七日

松村秀一レクチャーはこれまでのここでのレクチャーのまとめで最もクリエイティブなスタイルのものだった。若い学生にも良い影響を与えたであろう。学生はともかく私には刺激的であつた。日本の産業としての建設業の一部が向かうべき方向を確実に示した。イームズのケーススタディハウス(自邸)に対する見解はすでに

私の考えと共有できるものがある。松村氏は内田研究室が持っていたアカデミズムが持たざるを得ない波風立てぬ中庸の精神を打破する可能性がある。剣持吟以来の人材だろう。

第二講中川武 アンコールワットの保存論。

午後、来客、沖縄での可能性について話し合う。夕食は彼等と料亭で会食。九時ホテル。休む。深夜、止せばいいのにサッカーのTV中継をまどろみながら音だけ聞く。何故、サッカーなんか関心しないのにそうしているのか解らないが中田が復活したらしい。中田、イチローは新しいタイプの日本人だ。

三月二十八日

朝、私の最終講議。昼福岡へ。宮本さんと打合わせ、昼食。十七時佐賀へ戻り、県庁で井本知事にあいさつ。三年間の御礼を述べる。夕方権藤氏来校。懸案の件決める。川副さんにもお世話になつた。年寄りには皆潜在能力が在る。野村安藤の報告を聞く。安藤は正念場である。

三月二十九日

朝六時起床。今日は佐賀ワークショップ最終日。体力気力共これくらいが限界だ。野村はもう少しその使い道を拡張して考えた方が良さそう。あの人柄は貴重だ。沖縄はなんらかの形を任せてみようか。帰京したら沖縄の件で動く。佐賀での体験を生かして、もう少し具体的なモノ作りをベースにしたい。それが一番困難な事なんだけれど。

最終講評会。十七時半終了。井本知事による恒例の修了証書授与式。井本知事にも大変お世話になつた。

三月三〇日

今日は梅木、権藤と会って、これからの事を相談して帰京の予定。長くて短い三年間であった。朝難波氏と食事。十時学校へ。十一時佐賀新聞梅木氏と会う。武雄の森正洋さん宅へ。ワークショップの将来の話し合う。沖縄の土の建築の可能性についてもどうせやるなら楽しくやりたいな、遠くでやるならば徹底的に目的を明快にしなければエネルギーを使う意味がない。森正洋さんだって病をおして3年間WORKSHOPに参加して下さったのだから今度は本格的な事をやらなくては生きてる意味がない。アト片付けで残ったスタッフ、学生を残して佐賀を去る。福岡空港で安藤から宮本さんとの打合わせの報告を聞く。安藤の面白いところは馬鹿気た青臭い野心が無いところだな。自分を買いかぶってないところが面白い。自分はデザインが出来ると思っていたり、独特な発想の力があると思っている女学生くらい馬鹿はないから、それが無いってことは才能なんだよね。安藤向井を福岡空港に残して一便早く羽田へ。

丸い月が飛行機の窓から見えている。

三月三十一日 日曜日

朝、久しぶりに屋上菜園へ上る。程良く緑が増えていた。台所の生ゴミを土に埋める。前のを掘り起こしてみるとすっかり土になってた。早いのは一週間で土になるそうだ。生ゴミも湯気を立てる位に熱を持つてるからなあ。午後星の子愛児園現場へ。今はこれが精一杯だろう。園長先生も保母さん達も喜んで下さっているようで、ひとまずは安心。夕方日経コラム書く。屋上に木いちこの小木植えた。小木というより苗木だな。サヤエンドーとスイトピーに添木をして糸でツルを支えてやる。照れちゃうね。全

く。明日は私の五八才の誕生日である。何の感慨も無い。無駄を省きながらこのまま進むしかない。

夜、二〇〇二年度の仕事に関しての、オリエンテーションMAP作る。思っていたより簡単に出来上がった。佐賀ワークショップでのトレーニングのお陰様だ。

地下では私の打合わせコーナーを作らせよう。コの字型平面の現在物置きにして使用されていない部屋を改造する。

夜、稲光りして雷鳴った後、光々たる月夜。今日は早稲田ハウスクールOBの八頭司、黒田、太田がはるばる訪ねてくれたがスレちがいで失礼した。二日に仕切り直しとする。